

NEXT CONCERTS

>> 次回東京定期演奏会

第 **740** 回

サントリーホール

2022年 **5月27日(金)19:00開演** プレトーク 18:30~ 両日とも
マエストロによる
プレトークあり!

28日(土)14:00開演 プレトーク 13:30~

カーチュン・ウォンとのマーラー第2弾!
今回は天使が誘う第4番!

指揮: **カーチュン・ウォン**
[首席客演指揮者]

ピアノ: **務川 慧悟***

ソプラノ: **三宅 理恵****

伊福部昭: ピアノと管絃楽のための
《リトミカ・オスティナータ》*

マーラー: 交響曲第4番ト長調**

©Angie Kremer



指揮者が語る、次回東京定期演奏会!

カーチュン・ウォン編

時が経つのは早いものです。このメッセージを書いている今、私は日本フィルと2度の共演を果たしています。

初めて共演をしたプログラムはベートーヴェン、ショスタコーヴィチ、シュトラウス。そして昨年12月アルチュニアンとマーラーを演奏しました。2度の共演を経て、日本フィルのことをより深く知ることが出来ました。これからどのような曲を取り上げていくのか、事務局の皆さんと活発な議論をしています。楽しみにしてください。

5月定期では、伊福部昭の「リトミカ・オスティナータ」、そしてマーラー交響曲第4番の2曲を演奏します。プログラミングを考える時間、それは私にとってとても刺激的な時間です。プログラミングとは、曲それぞれが持つ味わいと豊潤さで決まります、まるでレストランで思い出に残るディナーを食べるのと同じよう。5月定期は、演奏時間が1時間ほどあるマーラーを後半にお楽しみいただきます。そのため、前半のプログラムは、演奏


時間だけでなくお客様のエネルギーを奪いすぎないように、丹念に曲を選びました。お聴きいただく交響曲第4番は、マーラーの他の交響曲と比べると内省的な作品のひとつです。非常に繊細な音楽が散りばめられており、平和と調和の中にある天国を子供が思い描いたところで終わります。そこで私はどんな組み合わせがいいのだろうか?と問いを巡らせました。モーツァルトはマーラーと非常に相性がいいし、ブルックナーとも相性がいい。しかし、今回は伊福部のリトミカ・オスティナータを選びました。最近知る機会に恵まれ、心を打たれた曲です。演奏時間が絶妙で、マーラーとは対照的なリズムの曲です。邦人作品の演奏経験が豊富な日本フィルと一緒に演奏することで、曲の持つ更なる魅力をお届けできると思います。

マーラーの交響曲第4番は、私にとって特別な思い出のある曲です。2014年のルツェルン・イースター音楽祭で、ハイティンク氏の指揮マスタークラスで初めて勉強しました。言葉はなく、彼の指揮棒の動きだけでオーケストラから紡ぎだされた音を、私は忘れることはできません。指揮者のなすべきことの大部分が、指揮者自身が一人音楽と向き合うことなのだと思えて実感させられた瞬間でした。丹念にスコアと向き合った集大成として、オーケストラと直接向き合うリハーサルがあるのです。

交響曲第4番は、マーラーが書いた他の交響曲に比べると小さな作品だと言われます。トロンボーンがなく、100分近い交響曲第3番に比べれば、かなり短い。オーケストラの編成は大きいですが、多くの楽器は音量のためではなく、音色、色彩感のために使われ、ほとんど同時に音を奏でることが無い交響曲。どの交響曲よりも魅力的な鈴の音から始まる序奏が、聴く者を子供と無邪気さの世界へと誘います。

マーラーの交響曲は準備にとっても時間がかかります。私は、演奏会の10カ月前には勉強を始めています。マーラーのスコアにはドイツ語で非常に多くの指示が書かれています。例えば、「nicht eilen」(急がない)、「nicht schleppen」(引きずらない)といったことです。これはアツェレランドやリタルダンドとは違う意味合いなんです。スコアを読みながら疑問を見つけるたび、それはまるでマーラー自身と会話しているかのように、目の前にドイツ語が現れます。彼は作曲家としてだけでなく、指揮者としても音楽を考えていました。マーラーの曲を指揮する度、私は少し賢くなったような気がして、理知的になったように感じるのです。このメッセージを書いている今、私はニルンベルクでマーラー交響曲第9番をリハーサルしています。9番のリハーサルを通じ、4番の交響曲が持つ生と死の概念について、深く考えるようになりました。マーラーが書いた緩徐楽章は、しばしば痛々しいほど美しい瞬間があります。ほとんど悲劇的ですが、短調ではなく長調で書かれています。

マーラーは1901年11月25日、ミュンヘンで交響曲第4番を初演しましたが、聴衆の反応は厳しいものでした。聴衆は第2番の様な、もしくは、それ以上の巨大な交響曲を期待していたからです。今日、交響曲第4番が私たちのコンサートレパートリーとして愛される作品の一つであることに、私は安堵と喜びを感じています。

助成:  文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術創造活動活性化事業)
独立行政法人 日本芸術文化振興会

1回券料金 S ¥8,000 A ¥6,500 B ¥6,000 C 完売 P ¥4,000 Ys (25歳以下) ¥1,500

*障害者手帳をお持ちの方は割引がございますので、サービスセンターにお問い合わせください。